足軽組屋敷 Q&A

Q. 足軽とは？

A. 足軽とは、江戸時代の歩兵で、弓・鉄砲の技能を持つ戦闘集団でした。武士の中では身分が低く、馬に乗ることはできません。北組、中組、鐘叩町組、上組、善利組、池須町組、中藪組の 7 つの居住区に集まり、城下町を取り囲むように配置されていました。計 1120 人が 37 組に編成され、各組を物頭（300 石以上の知行取）と手代（足軽の中間管理職）が統括していました。

◀足軽組屋敷配置図

Q. 足軽組屋敷の特徴は？

A. 彦根藩の足軽組屋敷の特徴は、門を構えた庭付き一戸建てだったことで、小さいながらも武家屋敷のスタイルになっています。庭にはマツやシュロが多く植えられていました。このような屋敷が 1 間半の道幅の地域に密集し、「どんつき」「くいちがい」の多い迷路のような町を形成しました。現在も約40棟の屋敷が残り、路地の景観が保たれています。他藩の足軽は長屋住まいであることが多く、大規模な足軽居住区が残っているのは彦根城下町の大きな特徴です。

村山家住宅の庭園
（写真提供：上川七菜さん）

Q. 足軽はどんな役割を果たしていたの？

A. 矢場や河原での弓・鉄砲の稽古、城門の警備のほか、普請方の指導のもとで土木作業に従事していました。藩の役所で官僚として働くこともありました。このように藩を下支えしていた足軽ですが、幕末の戊辰戦争のときには彦根の運命を左右する働きをします。幕府軍と新政府軍のどちらにつくか、上級藩士は藩校弘道館、足軽は宗安寺に集まって議論しました。足軽たちは新政府軍につくことで一致し、上級藩士に決断を促しました。その結果、彦根藩は新政府軍に加わり、彦根は戦火にさらされることなく明治を迎えたのです。

Q. 辻番所ってどんなところ？

A. 旧磯島家住宅にある辻番所は、道の様子を監視するための施設です。十字路がくいちがいになっており、のぞき窓から遠くが見通せるように工夫されています。もともとは各筋にありましたが、現存するのはこの 1 棟です。取り壊しの危機に瀕した 2007 年、市民によるトラスト運動が起こり、保存への原動力となりました。現在は市が所有し、2013 年に保存修理が完了しました。江戸時代は不審者を監視するために足軽が交代で番をしていましたが、現在は地域住民がおもてなしのために番をしています。

Q. なぜ下屋敷があったの？

A. 池須町や中藪村には、岡本家や三浦家など、井伊家の重臣の下屋敷（別邸）が立地していました。この地域は付け替え前の芹川の流路にあたり、地下水が豊富なため、庭園の池の水を確保しやすかったのです。池須町組から中藪組にかけて町割が不自然に曲がっているのは、旧芹川のなごりと考えられます。

足軽組屋敷マップエリアへのアクセス

JR・近江鉄道 彦根駅から徒歩約 20 分

「ぶらひこねプロジェクト」とは？

まち遺産ネットひこねは、彦根のまちに残る歴史的な遺産を再発見し、紹介していく市民団体です。これまでに「鍾馗さんマップ」「彦根城外堀マップ」「花しょうぶ通りマップ」「七曲がりマップ」「伝馬町・川原町マップ」「本町・魚屋町マップ」「彦根駅前マップ」を制作し、古地図を使ったまち歩きの楽しさを発信しています。

まち遺産ネットひこねホームページ　http://www.geocities.jp/machiisan_hikone/

2015 年 9 月 1 日　初版発行

制作　まち遺産ネットひこね（文・写真　鈴木達也）

参考文献

『彦根市史 下冊』（彦根市、1964 年）／『新修彦根市史 第 2 巻 通史編近世』（彦根市、2008 年）／『新修彦根市史 第 10 巻 景観編』（彦根市、2011 年）／『新修彦根市史 第 11 巻 民俗編』（彦根市、2012 年）／『彦根 明治の古地図 三』（彦根市、2003 年）／『彦根の先覚』（彦根市立教育研究所、1987 年）／柴田實監修『日本歴史地名大系 25 滋賀県の地名』（平凡社、1991 年）／彦根史談会編『城下町彦根－街道と町並－』（サンライズ出版、2002 年）／彦根景観フォーラム『彦根の足軽と善利組屋敷（1）』（2009 年）／渡辺恒一『彦根藩足軽組屋敷一覧表』（『彦根城博物館研究紀要第 19 号』、2008 年）三尾次郎『武家下屋敷の分布から見た彦根城下町の水利について』（『淡海文化財論叢第 4 輯』、2012 年）／矢部寛一『彦根古城の秘史』（彦根史談会、1964 年）

このマップは、文化庁の平成 27 年度「文化遺産を活かした地域活性化事業」の助成を受けて制作しました。
「御城下惣絵図」は、彦根城博物館の許可を得て掲載しています。

文化庁

ひこね

足軽組屋敷マップ

Hikone Foot Soldier's Town Map

古地図で楽しむまち歩き

ぶらひこねマップ　コース 8

路地の迷宮へようこそ！　外堀と芹川の間には、城下町の外周を守るように、江戸時代の歩兵「足軽」の屋敷が配置されました。現在も、狭い路地の中にたくさんの足軽組屋敷が残っています。江戸時代の古地図「御城下惣絵図」のまま残されたまちを探検してみましょう！

聞光寺

かつては彦根山にあった天台宗の「門甲寺」だったが、彦根城築城のとき現在地に移転。浄土真宗に変わった。現在の本堂は19世紀初期のもの。

蓮成寺

もとは佐和山城の法華丸にあったが、彦根城築城のとき現在地に移転した。石田三成の念持仏だった子安鬼子母神像を安置。現在の本堂は1746年ごろの再建。

花山院稲荷神社

江戸時代は井伊家の重臣三浦家の下屋敷があったところで、1806年、その一角に稲荷が祀られた。下屋敷はなくなったが、神社だけが残っている。

林家住宅

現存する善利組の足軽組屋敷。地鎮祭の祈祷札が残っており、1787年に建てられたことがわかった。年代が確認された中では現存最古。市指定文化財。

芹川堤のけやき

現在の芹川は、彦根城築城のとき城下の南側に付け替えられたもの。護岸の補強のために樹木が植えられた。普請方の指導により足軽が維持管理を担った。

太田家住宅

現存する善利組の足軽組屋敷。江戸時代末期の建物。8畳の「ざしき」には床の間があり、外には庭が設けられる。市指定文化財。

辻番所・旧磯島家住宅

現存唯一の辻番所。現在は屋敷とつながっているが、もとは独立した建物だった。屋敷には前庭がある。市指定文化財。
[土日祝 10～16時 無料公開中]

吉居家住宅

現存する善利組の足軽組屋敷。少なくとも1781年から吉居家に伝えられている。保存修理により門が復原された。市指定文化財。

北川家住宅

現存する善利組の足軽組屋敷。武士の格式を示す「おもてげんかん」がある。現在は隣地と一体になっているが、もとは別の屋敷だった。市指定文化財。

中藪村

もとは藪地だったが、彦根城築城のとき彦根村と長曽根村の百姓を移して村ができたと伝わる。明治 22 年に北青柳村、昭和 12 年に彦根市の一部となる。

大東義徹生誕の地

大東義徹（1842～1905）は中藪組の足軽小西家の出身。第1回総選挙で当選。大隈内閣で司法大臣。近江鉄道初代社長。生家跡に石碑が立っている。

瀧谷家住宅

現存する中藪組の足軽組屋敷。幕末の建築とともに、当時の道具や古文書が残っているのが特徴。年2回程度、まちかど資料館として公開。市指定文化財。

勘定人町

藩の財政を担当する勘定方役人の居住区。勘定方の役所は宗安寺の隣にあった。坊主長屋に住んでいた坊主は武家奉公人で、城内の雑務や来客案内を行った。

中居家住宅

現存する善利組の足軽組屋敷。外壁に竹を編んではっているが、昔からのものなのかどうか不明。1788年の大火以後の建築と伝わる。市指定文化財。

どんつき

十三丁目までは整然とした区割だが、十四丁目は不規則である。魚の骨のように「どんつき」が連続し、迷路のような路地になっている。

椿居家住宅

現存する善利組の足軽組屋敷。少なくとも1781年から椿居家に伝えられている。足軽組屋敷の典型的な平面構成をとどめている。市指定文化財。

服部家住宅

現存する善利組の足軽組屋敷。改装が少なく、江戸時代の姿を伝えている。土間は天井を張らず吹き抜けになっている。市指定文化財。

村山家住宅

現存する善利組の足軽組屋敷。「ざしき」「げんかん」「なんど」「だいどこ」の4室構成を保つ。江戸時代からの庭も残る。市指定文化財。